

“いのち最優先”の教育活動を行う

～浜名湖ボート転覆事故を教訓にして～
(平成22年6月18日)

① 野外活動中にボート事故発生 (H22. 6. 18)



浜名湖
ボート転覆中1人死亡
荒天下で体験習中
豊橋市立三ヶ日中学校

② 豊橋市教育委員会記者会見で謝罪 (H22. 6. 18)



豊橋市の加藤正俊教育長ら同市教育委員会の幹部4人が18日午後11時すぎ、章南中学校で記者会見し、「最悪の事故が起きて申し訳ない」と謝罪。「訓練実施の判断は誤りだったと思う」と起立して深々と頭を下げた。

職員誓いのことば

平成22年6月18日、静岡県浜名湖において、西野花菜さんの尊いのちを事故によって奪ってしまいました。私たちは、そのときの花菜さんの恐怖・苦しみ・辛さ・無念さを感じるにつけ、その悲しみの大きさに胸が張り裂ける思いです。

花菜さんは、いつも笑顔を決やさず、常に周りの様子を気にかけて誰にでもやさしく声をかけることができる子でした。

しかし、今はもう花菜さんの姿はありません。あの日、笑顔で花菜さんを送り出したご両親には、ただただお詫び申し上げるばかりです。

また、この事故によって、子どもたちや保護者、地域の方々等多くの人々の心に傷を負わせてしまい、誠に申し訳なく思います。

この事故で、私たち職員は、改めて子ども一人一人のいのちの尊さが心に刻み込まれ、教育活動において、いのちを守ることに使命感や責任感の大きさを新たにしております。

私たちは、この事故をけって風化させることなく、あらゆる教育活動において、いのちを第一に考え、安全を常に確保し、安心して教育活動が展開されるよう努めてまいります。

そして、無念な思いで天国にいった花菜さんの夢や願いの灯を子どもたちとともにいつまでも灯しつづけ、彼らの成長の礎になっていくよう、取り組んでまいります。

平成22年12月18日

⑩ 「花菜文庫」寄贈 (H22. 12. 18)

花菜ちゃんを忘れない



⑪ 花菜さんを忘れない (H23. 6. 18)

仲間が集い思い出せる



章南中の教職員はこういたい

○野外活動中の事故で、保護者からお預かりした大切な生徒の命を救うことができなかったという反省をもとにして。

○すべての教育活動において、生徒の命を最優先に考え、安全の確保を全職員が心一つにして努めていく。

○不幸な事故を二度と起こさない。安全・安心な学校づくりをするためのリーダー校となるために。

○校外学習における安全マニュアルを作成し、遵守するだけでなく、もしもの場合、自ら判断・行動する力を身に付ける。

○悲しい事故のことを決して忘れず、これから先も風化させることがないようにするために。

○事故を通して得た教訓を、安全な学校づくりのために生かし、豊橋のみならず近隣の市町、ひいては全国に向けて発信する。

③ 訓練実施の判断は適切か? (H22. 6. 19)

荒天の中、訓練を実施した中学校や静岡県立三ヶ日青年の家の判断は適切だったのか、浜松市北区の浜名湖で愛知県豊橋市の女子中学生一人が訓練中に死亡したカッターボート転覆事故は十九日、警察などによる本格的な原因究明が始まった。人を乗せたままモーターボートでえい航した方法にも専門家から疑問の声が上がった。



④ 校長、全校朝会で説明と謝罪 (H22. 6. 21)



全校集会で、生徒に浜名湖でのボート転覆死亡事故の経緯を話す水野亮昭校長。

⑤ 安全、危機管理徹底を! (H22. 6. 21)



豊橋市教育委員会は、臨時校長会を開いた。市内74の小中学校長らを前に、加藤正俊教育長が「楽しみにしている野外体験活動でも、思い切ってやめる勇気を持つべき」と述べた。また、「自然体験学習で『安全確保と危機管理』ができていくが徹底してほしい」と強調した。

⑥ 事故の原因は・真相は? 西野さん記者会見 (H22. 10. 12)



豊橋市教委腰重く
父何も知らされず

⑦ 学校の判断はどうだったのか? (H22. 11. 7)

「転覆解明に署名を」
ボート事故 遺族が呼び掛け

⑧ 豊橋市教委対応マニュアル提示 (H22. 11. 8)

市教委が対応マニュアル提示
西野さん「原因究明に不満」

⑨ 娘を失った痛みが薄れることはない (H22. 12. 22)

原因究明 遺族の願い



「いのちの日」演説会
生前花屋「ハイオリー」も

本校が作成した「校外学習における安全対策について」のマニュアル(冒頭の部分)